

令和6年度「新居浜を明るくする運動」に係る作文に応募いただいた皆さま、ありがとうございました。惜しくも入選に至らなかった作品をこちらに掲載いたします。ぜひご覧ください。

「新居浜市に笑顔があふれるように」

宮西小学校 6年 加藤 海里

わたしは今までに「ルールを守ろう」などの看板や宣伝をたくさん見てきました。昨年くらいまではルールについてそこまで深く考えてはいませんでした。しかし、六年生となり、ルーラーについて段々と考えるようになりました。

考えるきっかけとなったのは、最近ニュースを観る度に、犯罪や事故について報道がされているからです。この様なニュースを観たときに「ルールを守らないと犯罪につながる。」と担任の先生が言われていたことを思い出しました。そのことを思い出したわたしは、何気なく守っていなかったルールについて考えました。そういえば、今日もろう下を走ってしまったし、二段飛ばしをして階段を上がっていました。小さなルールでも守っていないといつか事故が起きたり、犯罪につながったりしてしまうと感じました。ルールは普段の生活の中だけではなく、スポーツやゲームの中にもあります。ルールを守らず、反則をして勝っても一つも楽しくないなと思いました。

私の好きな新居浜市でも犯罪が多いと聞きました。この事実を聞いたとき正直信じられませんでした。しかし、よくよく考えてみるとルールを守れていない人を時々見かけるなと思いました。スマートフォンを見ながら運転をしている人、スピード違反をしている人や黄色信号ぎりぎりですら車で通過する人。そのような交通ルールを守らなければ大きな事故につながると思います。もしかしたら人が死んでしまうかもしれません。ルールを守らないと、新居浜市から笑顔が消えてしまうと思います。わたしが大人になった時には、笑顔あふれる新居浜市にしたいです。そのためにも一人一人ができる限りルールを守ってもらいたいです。そうすることで少しずつですが、事故や犯罪が減ると思います。また、みんながルールを守っていくために自分からしていきたいことがあります。どんな小さなルールでも必ず守る。特に今は学校内のルールを守り、誰もが安心・安全な学校にしていきたいです。また、ルールを守っていない人を見かけたら積極的に注意していきたいと思っています。

自分ができる小さなことが、明るい新居浜市を作っていく、事故や犯罪を減らしていくことにつながるということを、この作文を書くことによって改めて感じました。

「明るい笑顔の新居浜市」

宮西小学校 6年 日野 瑠太

新居浜市が犯罪のない明るく笑顔いっぱい、辛い思いをする人がいなくなるために、一人一人が決められたルールを守らないといけないと思います。そして、自分や自分の家族にされて嫌なことはだれかにしないという意識をすることが大切だと感じます。

クラスの中で起こるけんかもだれかがルールを守らなかったからで、言われて嫌なことを言ったり、したりするからです。

今年度担任になった先生が「サッカーも野球もドッジボールも、ルールの中で遊ぶから面白い」と、言われていました。それを聞いて身近なところでのルールの大切さが分かりました。遠足に行ったときにクラスみんなでしたサッカーは、みんながルールを守っていて本当に楽しかったです。そして、いつも起こるけんかも起こらなかったのびっくりしました。この時に「ルールを守ることの大切さ」を実感しました。学校にもいくつかルールがありますが、このルールを守って毎日を過ごす、とても楽しいのではないかなと思いました。

また、自分にされて、言われるとどんな気持ちになるかを考えながら行動することも大切だと思います。自分のクラスは人をからかったりする人が多くいました。特に暴言をはく人が多いように思いました。そのあと起こるのがけんかです。よく考えたらぼくも友達を傷つけるようなことを言ったり、言われて言い返してけんかになったりしてしまったことがあります。何かを友達に言うときやするときは、一度頭の中で考えたいです。

そうやって考えるのであれば、逆にみんなが明るくなるようなことを言ったり、したりしたいなと思います。例えばぼくだったら、「一緒に遊ぼう」や「今日は帰ってゲームしようよ」と言われると、とてもうれしい気持ちになります。また、勉強が分からないときに友達が教えてくれるととてもうれしいです。ちょっとしたことですが、みんなの行動や言葉で楽しい生活を送れるということが改めて分かりました。ルールを守ること。みんなが笑顔になれるような言葉かけや行動をすること。みんなが意識して行えば、明るい笑顔の学校、新居浜市になると思います。

「やさしさと傘」

金子小学校 6年 山田 晴大

ぼくは、二年生のときに北海道から転校してきました。四年生になった七月のある日の学校の帰り道、少し雨が降っていました。ちょうど梅雨の時期で通学路を歩いている

と、少し雨と風が強くなってきました。傘をさしながら早歩きで急いでいると、一瞬体が飛ばされそうなほど強い風が吹きました。傘が飛ばされないように持っているところが開く部分がこわれてしまい、雨を防ぐことができなくなりました。このままだと、びしょびしょになってしまうので、歩道橋を渡って歩道橋の下で雨が弱まるまで、雨宿りをしていました。すると、近くの「こども110番の家」の人が出てきて傘を貸してくれました。ぼくは、「本当にいいんですか。」と、言いましたが、そのおじさんは、「明日、返してくれればいいから。」と、笑顔で言ってくれました。

そのとき、ちょうど奥さんが帰ってきたようで、「びしょびしょじゃない。早く帰りなさい。」と、言ってくれました。ぼくは、「本当にありがとうございます。」と言って、帰りました。友達も一緒に帰っていたけど、友達も傘を持っていませんでした。だから、その友達にも傘を一本貸してくれました。

「こども110番の家」の人は、不審者から守ってくれるだけでなく、「こんなふうに助けてもくれるんだな。」と、思いました。そして、北海道にも「こども110番の家」があって、トイレに行かせてもらって助かったことを思い出しました。

それから、ぼくたちが登下校するときには、花の水やりをしながら、様子を見守ってくれています。僕の弟が、母と散歩するとき、そのおじさんに手を振るそうなのですが、笑顔で手を振り返してくれると聞きました。きっと、家の中からもぼくたちの様子を見てくれているんだと思います。

新居浜市には、「こども110番の家」がたくさんあります。最近、不審者情報も多いので、万が一被害にあいそうになって、助けてもらいたいときの地域の安心スポットになっていると思います。

ぼくの通学路には「こども110番の家」が二軒あります。通学路の「こども110番の家」を把握しておく、より安心して登下校ができることをみんなに知らせたいと思います。ぼくの弟も四月から一年生になったので、登校するとき、「困ったことがあったら、おじさんに助けてもらったらいいいからね。」と、「こども110番の家」のことを教えてあげようと思います。これからも、新居浜市を安心して明るくしてくれている「こども110番の家」の人に感謝の気持ちを持って過ごしていきたいです。

「ぼくらの町の明るい所」

金子小学校 6年 川上 令煌

ぼくが友達と学校から帰っていた時の話です。一緒に帰っていた友達が、手を滑らせて鍵を落としてしまいました。地面に鍵を落とすだけなら問題なく拾えるけれど、その時はあみの下の空洞に落ちてしまい、拾えないようになってしまいました。ぼくは友

達に、家には入れるのかとたずねると、「家の人が留守だから夜遅くまで入れない。」と困った様子でした。このままではまずいと思い、近くの大人の人に頼ろうかと思いましたが、しかし、その日はクラブで帰る時間が遅くなってしまい、近くには大人も子どももない状態でした。近くの大通りに行けば、なんとかなるのではないかと考えて大通りまで行っても、車は多いけど通行人はいなくて、二人で悩んでいました。その時です。トラックの運転手の方が心配してくださったのか、トラックから降りてきて「大丈夫？」と声をかけてくださいました。ぼくと友達は状況を説明しました。「分かった。あそこに落ちている鍵を取ればいいんだね。」そう言うと、運転手さんはあみを持ち上げて下に降り、鍵をとってくれました。「どうぞ。」そう言って、友達に鍵をわたしてくださいました。ぼくと友達は深く頭を下げてお礼を言いました。運転手の方は「いいよ。」と言って、そのまま笑顔でトラックへと戻って行きました。トラック運転手の仕事は、荷物を早く届けたいといけないし、受け取る人との対応もあります。大変だと思うけど、それでもぼくたちにすぐ声をかけてくださり、鍵をとってくれたのです。その後友達とぼくは何の心配もなく帰ることが出来ました。

ぼくの住む新居浜市は、他の県の県庁所在地や、都会な場所と比べると大きなビルや広いショッピングモールは少なく、人口も少ないかもしれません。でも新居浜市には、今回のように物を落としたり拾ってくれたり、食べ物や飲み物を買ったりすると「美味しそうだね。」と声をかけてくれたりと、大変な中でも声をかけて、自分に出来る最大限の行動をしてくださる温かい人がたくさんいます。そんなところがぼくの住む新居浜市のすてきなところだと思います。

ぼくは、トラック運転手さんの温かい行動に感動し、この街が更に好きになりました。ぼくも助けてくれたトラック運転手さんのように、だれかが困っていたらすぐに助けてあげられる人になりたいです。そしてこの街をもっと明るく温かい街にしていきたいです。

「明るい新居浜市へ」

金栄小学校 6年 宮下 直大

コロナ禍でイベントなどが中止になったり学校が休みになったりして、友達や地域の人と会うことが大きく減った。今感染者が減る中でイベントなども開催されて交流が少しずつ回復してきているのではないかと思う。しかし、地域の方々との直接的な交流は減ってきていると思う。今の時代、SNSを使えば世界中の人と会わなくてもやりとりができる。このことも人との直接的なコミュニケーションが少なくなった原因の一つであると考えられる。

ぼくは、地域交流の第一歩としてあいさつが大切だと思う。ぼくは、学校の門の前であいさつ運動をしている。全校のみんな以外にも前を通る人たちにも大きな声であいさつをしている。全校のみんなはあいさつを返してくれる人がたくさんいて、とても心が温まる。しかし、道行く人の中には、急いでいるのか首をふるだけで、あいさつを返してくれる人がなかなかいない。そういうことが続き、あいさつをすることに消極的になってしまっていた。住んでいるマンションでもあいさつをしても、返してくれない人がいる。ある日、マンションで会った知らない人にあいさつをしたら、あいさつを返してくれた上にお礼までしてくれて、とてもうれしかった。この時からあいさつを返してくれなくてもあいさつを積極的にしていこうと思うようになった。あいさつは、人と人をつないで地域を作っていく言葉でとても大切なものであるということを改めて感じた。

ネットの記事で、あいさつの大切さの別の理由を知った。震災などの災害時には、住民同士の助け合いが必要不可欠だ。そのためには、日々のコミュニティ形成が重要になってくるので、あいさつは大切ということである。他にも、意外な理由がある。それは防犯効果があるということだ。人が犯罪をしようとしているときに一番おそれているのは、顔を認識されることらしい。実際、泥棒が犯行をあきらめた理由として多いのが、「声をかけられた。」「人からじろじろ見られた。」などがあるそうだ。全国各地で犯罪にまきこまれる事件などが後をたたない。事件は起きてからではおそいので、たくさんあいさつをして犯罪を未然に防いでいきたい。

あいさつをして声をかけ合うと心が温かくなる。明るい新居浜市を作るためには、一人一人が積極的に関わり合い、協力していくことが必要だと思う。今の時代、スマホやゲームなどに夢中になりすぎて、人と顔を合わせて関わることが少なくなりがちだ。ぼくは、地域のお祭りなどに参加して交流することを大切にしていきたい。あいさつはかんたんなものだと思うがちだが、しっかり相手の目を見てあいさつをしたい。そして、新居浜市を明るく正しく生活ができる市にしていきたい。

「あいさつで未来は変わる」

高津小学校 6年 関谷 柚穂

最近、あいさつをしてもあいさつを返さない人がいます。今までの私も、あいさつは返すものの小声で言うのが精いっぱいでした。そんな私のような人達が、今より少しでもあいさつをするようになったら、新居浜はもっともっと明るくなると思います。なぜなら、あいさつをするようになったら、私の未来が変わったからです。

ある朝、学校に行く前におとなりの人が外に出て、せんとく物をほしていました。い

つもは、はずかしくて自分からあいさつをすることができていませんでした。けれども、その日は勇気を出しました。大きな声で、「おはようございます。」とあいさつをすると、「おはよう！あいさつ、ありがとう。」とうれしそうに返してくれました。その時、私は「あいさつをすれば、仲が深まるし、笑顔になれる。」と気づきました。

ちょうどそのころ、私は、登校班の班長になっていました。がんばるぞと、はりきっていたものの、集合場所でのあいさつは小声でした。登校班のふんい気も静かで、あまり話をしない班でした。

となりの家の人とのあいさつのできごとがあったその日、私は「明日から登校班の班長として、大きな声でにこにこしながらあいさつをしよう。」と決めました。

次の日、みんながいる集合場所はいつも通り静かでした。そこで思い切って「おはよう！」と言ったら、みんながにこにこして、「おはよう！」と返してくれました。とってもとってもうれしかったです。

その日から、登校班のみんなが楽しくしゃべって、おたがい前よりずっと仲良しになりました。にぎやかで楽しい班になったのです。さらに、「おはよう！朝ごはん、何だった？」「昨日、何したん？」など、会話を楽しみながら学校に行くようになりました。あいさつで私の未来が変わったのです。

四月、六年生になった私に、新しく来た校長先生が「あいさつは人と人が仲良くなれる魔法の言葉だ。」と教えてくれました。本当にその通りだと思いました。そして、「おはよう」の言葉だけでなく、「朝ごはん、何だった？」という「あいさつプラス一言」が、更に相手を知るきっかけになり、仲が深まるんだということにも気づきました。

あいさつをすることで、登校班と私の未来が変わったように、あいさつがあふれたら、新居浜市の未来も変わると思います。「あいさつプラス一言」で私は自分の未来を変えていきます。

「明るくやさしい新居浜市をつくるには」

浮島小学校 5年 高橋 愛佳

わたしは、浮島校区に住んでいます。大好きな校区には、海岸があります。しかし、悲しいことに、海岸のかべには落書きが書かれています。黒いよごれがあるところに、白色で書かれています。たくさん書かれています。「死ね」ということも書かれました。わたしは、見ただけでとてもいやな気持ちになりました。見た人はみんな、いやな気持ちになると思います。

新居浜市にある問題は、落書きだけではないと思います。ヘルメットをかぶらずに自転車に乗ったり、自転車の二人乗りをしていたり、交通ルールを守っていない人をよく

見かけます。それに入ってはいけないきけんな場所に、遊ぶために入っている人を見かけたこともあります。きまりを守らない人がたくさんいて、悲しいです。

テレビでもたまに、新居浜の事件が流れています。何年か前には、命を落としてしまった事件もありました。わたしの住んでいる所の近くで起きました。全国ニュースでも流れたので、とてもびっくりしました。事件を起こした人は、どんな気持ちだったのでしょうか。被害にあった人は、一つしかない命を落としてしまいました。人の命はとうといものです。大切にしなければいけません。新居浜市でこんなに悲しい事件が起きたということは、とてもショックでした。もう二度と、こんな事件が起こらない新居浜市になってほしいと思っています。

悲しい思いをする人が少なくなるように、わたしたちにできることはたくさんあります。わたしは、学校でしている毎日のあいさつ運動をがんばりたいと思っています。みんなの力で、明るくてやさしい新居浜市にしていきたいです。

「あいさつができるまで」

多喜浜小学校 5年 福田 杏珠

私は、小さいころからはずかしがり屋で、人に話しかけるどころか、あいさつすることさえ苦手でした。たくさんお話やあいさつをすればよかったと後悔しています。保育園のころに、色々な行事に参加していました。その時も、出会った人に話かけられることはありましたが、あいさつもできずに、お母さんの後ろへかかれることが多かったです。

そうして迎えた小学校への入学。まだ、私は、はずかしさが残っている一年生でした。今までと同じように、なかなかあいさつができませんでした。そんなある日、

「おはよう。」

同級生の友達が、元気にあいさつをしてくれました。今からもっと仲良くなる友達からのあいさつは、とてもうれしい気持ちになりました。それと同時に、あいさつをすることがはずかしいと思っていたことに、はずかしくなりました。それから、あいさつをできるようにしようと決心しました。

すると、少しずつあいさつができるようになりました。特に、二年生から始めた空手。兄が大会で優勝した姿やみんなからお祝いされているところを見て、私も兄のようになりたいという思いがありました。優勝するために練習を頑張ろうと思っていましたが、最初に教わったのは、相手に対する気持ちでした。礼儀礼節や周りの方への感謝、特に、お母さん、お父さんへの感謝をわすれないということを教わることで、さらに成長することができました。実際に、友達、先生、地域のおばあちゃんやおじいちゃん、旗当番

の保護者の方など多くの人に対して、自分からあいさつができるようになっていました。それにともない、空手の成績も良くなっていきました。毎日の練習や試合を頑張り、四年生の全国大会では、準優勝することができました。その後、全国大会で獲った大きなトロフィーといっしょに市役所に表敬訪問をしました。空手を頑張ることで、自分がうれしくなるだけでなく、新居浜も明るくすることにつながることを知りました。実際に少しでもこうけんできたのならうれしいです。

私がこれから頑張りたいことは、あいさつを元気よくすることと、全国大会で優勝することです。今年から高学年になりました。上級生としてお手本になるあいさつをしたいです。相手の目を見てあいさつをするなど、細かいところも意識して元気よくあいさつできるようにがんばりたいです。空手では、全国大会で勝てるように、日々の練習を信じて努力し続けます。

そして、少しでも、新居浜が明るくなるお手伝いができるようにがんばりたいです。

「新居浜を明るくするために」

多喜浜小学校 6年 大西 ひまり

わたしは、生まれ育った新居浜が大好きです。そんな新居浜や地域を明るくするためにがんばっていることや取り組んでいることが三つあります。

一つ目は、積極的にあいさつをすることです。友達や通りすがりの人、先生方にあいさつをしたとき、笑顔で返事をしてもらうと、うれしくなります。あいさつをしても返ってこないことがあります。落ち込まずにあいさつを続けていこうと思います。笑顔であいさつをしてくれる人を増やして、地域全体が笑顔で明るく過ごせるようにしたいです。また、今年わたしは六年生になりました。下級生は上級生を見習います。上級生からどんどんあいさつをして、元気なあいさつの声を増やしていきます。そして、多喜浜小学校から元気なあいさつを地域へ広げていきたいです。

二つ目は、地域の活動にどんどん参加することです。多喜浜には、ボンデン広場という地域の活動があります。わたしはボンデン広場の活動に四年間参加していました。ボンデン広場に参加したことでたくさんの人と顔見知りになり、地域の人たちとのつながりができました。ボンデン広場では様々な体験をしたり、遊んだりしながら、楽しく地域の人たちと関わることができました。これからもこのような機会にどんどん参加し、地域の人たちと交流の輪を広げていきたいです。

三つ目は、ごみ拾いです。多喜浜には、じまんで自然が広がっています。その自然がペットボトルなどのごみで汚れていたら、地域の人やわたしも落ち込みます。だから、周りの人と協力してボランティア活動をしていきたいです。少しでも海や山のごみ

拾いをしたら、ごみが減ってきれいな自然を保つことができ、自分たちの心も気持ちよくなります。そして、一人一人が笑顔になっていきます。町や自然をきれいにしても、新居浜や多喜浜が明るくなることにつながっていくんだと思います。ごみ拾いは今までにあまりしたことがないので、これから友達と協力して取り組んでみたいです。

これから、新居浜や多喜浜を明るくしていけるようにがんばっていきたいです。始めたばかりは、あまり成果がわからないかもしれません。しかし、あいさつなどを地道に努力していくことで、だんだん明るくなっていくと思います。大好きな新居浜を明るくするために、自分にできることをがんばっていきたいです。また、自分だけでなく、周りと一緒に協力して新居浜を明るくしていきたいと思います。

「新居浜をよりよい町にするには」

大生院小学校 4年 大西 汐音

わたしは、新居浜市をよりよい町にすることについて考えてみました。よりよい町にするためにはどうしたらよいのでしょうか。

まずわたしは、新居浜市はどんな町かと考えてみました。わたしは新居浜市は、みんな笑顔でしぜんゆたかない町だと思います。

そう思った理由は、笑顔で大きな声であいさつをしている人が多いし、きれいな緑色をしている山がいくつもあるからです。田んぼもいっぱいあって、きれいでおだやかな川が流れていて、生き物が多いからです。

次に、もし新居浜市にひこうやはんざいが多かったらどうかと考えてみました。わたしは人がこまるし、ここはひこうやはんざいが多い場所だからと、新居浜市から出ていってしまう人が出てくると思いました。

例えば、放火や物をとる事けんが多発したら、みんながとてもいやな思いをするし、とてもあぶないです。また、いやなことをされたり、あぶない目にあわされたりすると、だれだってここに住むのはいやだと思うと思います。そのせいで新居浜市の人口が減ったりすることもあるかもしれません。だからひこうやはんざいのない町にしたいです。

では、ひこうやはんざいのない町にするためにはどうしたらいいか考えてみました。

一つ目は、悪いことをしたらどうなるか、人がどんな思いをするかをみんなが考えることです。もし自分の物をとられてしまうなんてことがあったら困るし、いやな思いをすると思います。だから、もし自分がそうだったら、どんなに人にめいわくがかかるかと考えてみるといいと思います。

二つ目には、悪いことをしている人を注意することです。なぜなら、やってしまっただけではおそいと思うからです。もし川にゴミをすててしまっても、すぐにひろうこと

はできません。放火で火をつけてしまったら自分の力ではもうどうにもできません。このように、やってしまったらもうおそいと意しきして、人に注意したり、自分にも注意するといいと思います。

最後にどんな町にしていきたいかを考えました。わたしには、どんな町にしたいかという考えがいくつかあります。

一つ目に、みんなが明るい笑顔でいやなことなしの町にすることです。二つ目には、みんなできょうかし助け合う町にしたいです。三つ目には、仲のよい町にしていきたいです。これらの三つのことを意しきしていきたいです。

みんなで新居浜市をよりよい町にしていきたいです。みんなでルールを守ってよりよい町にいきましょう。

「愛媛県一の新居浜市」

大生院小学校 5年 小池 唯花

わたしは愛媛県で一番の笑顔、あいさつ、助け合いができる新居浜市になったらいいなと思います。その中でも気をつけたいこと、これからちょうせんしたいことをそれぞれ、二つずつしょうかいします。

気をつけたいことの一つ目は、笑顔であいさつをすることです。わたしはあいさつを大きな声ですることはできているけれど、笑顔であいさつすることはなかなかできません。でももし、地いきの人や周りの人に笑顔であいさつされたらきつとうれしいので、自分がされたらうれしいことをして地いきの人や周りの人を笑顔で元気にしたいです。

二つ目は、やさしく、こまっている人ややさびしそうな人に声をかけることです。例えば、「だいじょうぶ。」「いっしょに遊ぼう。」などが言えるといいなと思います。でもわたしはそう言える時よりも言えない時の方が多いので、そのことについて気をつけたいです。声をかけたくても勇気が出なくて言いにくい時は笑顔であいさつする時と同じように、相手の立場になり、自分がしてもらったらうれしいことをすることが大切だと思います。また、声をかけることが苦手な理由はもう一つあります。それは、はずかしくてきんちょうするからです。そして、声をかけた時、もし悪いはんのうをされたらいやだからです。でも、悪いはんのうをされたことは一度もないので、それを信じて勇気を出して声をかけたいです。

これからちょうせんしたいことの一つ目は、新居浜市のゴミをへらすことです。地いきの川に行った時、上流の方はたくさんゴミがありました。それから、学校から帰ってきた時、庭にペットボトルが落ちていました。わたしはそれを見て、少し悲しい気持ちになりました。他の人がゴミがたくさんの新居浜市を見てもきつと悲しい気持ちになる

と思います。だから進んでゴミを拾うことにちょうせんしたいです。

二つ目は、地いきの楽しいイベントをみんなに伝えることです。わたしは去年、あるイベントに参加して、新しく知ったことや、楽しい体験がありました。けれど、人数が少し少なかったので、残念に思いました。だから、いろんな人に知ってもらって、イベントの楽しさを伝えたいです。

最後に、わたしはこの作文を書いて、気をつけたいこと、ちょうせんしたいことなどは、それをしたら、どんないいことがあるか考えるといいことに気づきました。そして、新居浜市をみんなが笑顔、あいさつ、助け合いができる愛媛県で一番のまちと言えるようなところにしたいです。

「地域の人たちと私たち」

大生院小学校 6年 浅野 陽向

私は、最近ニュースで殺人やせつ盗などの悲しいニュースが増えてきていると思います。私の住む新居浜市では、あまりそのような事件は起きてはいませんが、少し前にとなりの四国中央市で、じゅう殺事件がありました。私は、その事件をニュースで聞いたとき、とてもおどろきました。じゅうで人を殺してしまった人は、どうしてそんなことをしてしまったんだろうと私は、考えました。そして、そんな事件に自分がまきこまれたらというこわい想像をしてしまいました。

今、新居浜市で事件や事故が起きないようにするために防犯パトロールや地域安全マップの作成、環境浄化活動などが行われています。ボランティアで見守り隊をしてくれている人は、交通事故や不しん者がいないかなど、私たちが安全に学校へ行けるようにしてくれています。その人たちは、私たちにとって、かかせない存在です。

私が今、犯罪を減らしていくためにできることは、三つあります。

一つ目は、「あいさつ」です。笑顔であいさつをしたり、返したりしてもらえると、とてもうれしくなります。そして、「今日も一日がんばろう。」という気持ちになります。「あいさつ」という当たり前のことが、犯罪を減らすために大切なことだと思います。

二つ目は、「ゴミ拾い」です。犯罪者は、よごれた街を好む傾向があると聞くので、新居浜市をきれいな街にすれば、犯罪者を減らすことにつながると思います。私は、地域の清そう活動に参加したり、落ちているゴミを進んで拾ったりしていきたいと思いません。

三つ目は、「地域の人と顔見知りになる」です。顔見知りになっておくと、あやしい人がいるとけいかいすることができます。また、その情報を共有して、地域の安全マップを作ることができます。

私は、「あいさつ」「ゴミ拾い」「地域の人と顔見知りになる」という三つのできることを生かして、身の周りの人たち、そして新居浜市民みんなと協力して「犯罪のない明るい新居浜市」をつくっていきたいです。

最後に、この世界中の人たちが安心してらせる未来が来るように、新居浜市から始めていきたいです。この世界から悲しいニュースがだんだん少なくなるように自分から、考えて行動していきたいです。

「あいさつ上手」

中萩小学校 六年 鈴木 美海

みなさんは、あいさつができていますか。あいさつには、自分も相手も笑顔にする力があります。

私が朝登校しているとき、すれちがった方にさりげなく、笑顔で「おはようございます。」と言うと、あいさつされた方も「おはようございます。」と返してくれます。けれど、私は少し残念な気持ちになることがあります。その理由は、あいさつを返されたときの相手の表情が冷たく、元気のない声で返されるときです。私は、あいさつをそんなふうに返されてしまうと明るい気持ちが嫌な気持ちに変わってしまいます。こんな日常がときどき送られていました。

そこで私は考えました。どうしてあいさつがきちんと返ってこないのだろう。考えるうちに少し分かった気がしました。それは、私のあいさつは笑顔だったとしても、相手にとってうれしくなるような元気な声であいさつができていなかったからではないかということです。私は元々恥ずかしがる性格で、あいさつすらできませんでした。けれど、「あいさつをすると気持ちよくなるんだよ。」と祖母に教えてもらったので、だんだんとあいさつができるようになりました。

もしかしたら、相手も自分も嫌な気持ちになるようなあいさつならしない方がいいと思う人はいませんか。私は今、会った人にあいさつをすると笑顔で返してくれたり、温かい声であいさつを返してもらったりしています。これは、私が笑顔で、相手もうれしくなるような温かい声であいさつをするように気を付けているからです。私は考えました。「自分のあいさつの仕方、あいさつの返され方が変わるのではないか。」ということです。こう考えてから、私の毎日のあいさつの仕方は笑顔で明るい声に変わりました。あいさつをしても返されない、笑顔でのあいさつができない、温かい声であいさつができないなど、様々な思いであいさつが上手にできていない人はたくさんいると思います。あいさつが口に出せなかったとしても、まずは礼をするなど、相手に気持ちが少しでも伝わるように工夫してみるとどうでしょうか。私はこれからもあいさつを続けて、温か

い気持ちで一日が過ごせるよう、身近な人にこの気持ちを伝えていきたいです。

「新居浜を明るくするために」

中萩小学校 6年 飯尾 桃佳

私は、地域で毎月行われている「子ども食堂」という行事に参加しています。いつも何気ない気持ちで参加していました。でも、あるとき、いつもお世話になってばかりでは申しわけないという気持ちになりました。そこで、中学生のボランティアをしている人に、「こんなにたくさんの料理を作るのは大変じゃないですか。」と聞いてみました。すると、「とても大変ですが、みんなが「おいしかったです。」とか、「ごちそうさまでした」とか声をかけてくれることがすごくうれしいから、大変という気持ちよりも楽しいという思いの方が強いです。」と、笑顔で教えてくれました。

私は、この言葉を聞いて、私も中学生になったらボランティア活動に参加して、いつもお世話になっている分、恩返しをしたいという気持ちになりました。また、この話を聞いてからは、いただいているお弁当には、たくさんの人の協力がつまっていることを忘れずにありがたく、おいしく味わって食べようと思うようになりました。

子ども食堂のお弁当に使われている食材についても聞きました。すると、食材は近所の方やスーパー、コンビニなどたくさんの方々が無料で提供してくれていることを知りました。私は食材のことも今まで考えたことがなかったので、この話を聞いてすごくおどろいたし、私たちが食べているお弁当に使われている食材には、こんなにたくさんの人の思いがつまっているのだと思うと、心が温かくなりました。

私は今まで、何も知らずに食べていたお弁当にも、多くの方が時間をかけて思いをこめて作ってくれたのだと考えると、よりお弁当がおいしく食べられると感じました。私はまだ小学生だから、このボランティア活動には参加できないけれど、中学生になったら参加したいと思っています。

今の私にできることは、毎日食べる食事のあいさつに気持ちをこめる、好き嫌いをしない、残さず食べるなど、小さなことしかないかもしれませんが、私にできるはんいで感謝の気持ちを伝えていきたいです。また、身近な人にも感謝して食べること、温かい気持ちでボランティア活動をしていてくれる人がいることを伝えて、少しでも感謝の気持ちを広げていきたいです。

「あいさつの意味」

泉川小学校 6年 加藤 柚羽

朝、登校すると、正門に校長先生や見守り隊の人があいさつして下さいます。登校する道の途中でも、地域の方があいさつして下さいます。私は、必ずあいさつを返しています。でも、あいさつをしていない人をたまに見かけます。人見知りであっても、勇気を持ってあいさつを返したらいいのと思います。また、私より大きな声であいさつをしている人もいます。笑顔で相手の目を見てあいさつをしているのです。それを見て、私は、「ただあいさつするだけじゃないんだ。」とおどろきました。

この前の道德の授業であいさつについて考えました。主人公の女の子は、正門前であいさつ運動をがんばっていました。登校してくる子どもたちや正門前を通る仕事へ向かう人たちに「おはようございます。」とあいさつをしていました。でも、急いでいるのか、なかなかあいさつを返してくれません。だんだんあいさつ運動をがんばろうという気持ちが無くなってきたのです。すると、おばあさんがあいさつから元気をもらえると、主人公の手をぎゅっとにぎりながら、うれしそうに話しかけてくれたのです。あいさつがだれかの力になっていると気付いた主人公は、これからもあいさつ運動を続けようと心に決めました。

この話を学習して、私は、「あいさつの意味」について考えました。あいさつは、相手に返してもらいたいからするのでもないし、「おはようございます。」という言葉だけをただ言うのでもないのです。あいさつは、言った自分も、言われた相手もいい気持ちにすることができる「まほうの言葉」なのです。少しあいさつの仕方を工夫するだけで、みんなを笑顔にすることができるのだと思います。

以前、学校へ行くのがつらいと思ったとき、校長先生や見守り隊の人とあいさつをしたら、元気が出てきました。笑顔の「おはようございます。」のおかげで、私のもやもやした心がさっと晴れて、前を向くことができました。だから私も、元気のない人をそっと支えられるようなさわやかなあいさつをしたいと思っています。

わたしが考える理想のあいさつとは、大きく、はっきりと、笑顔で、目を見て、心をこめてするあいさつです。あいさつには意味があります。そして、続けることにも意味があります。私は、これからも理想のあいさつをめざし、あいさつを続けていきたいと思っています。

「地域の人との関わり」

泉川小学校 6年 喜多 美月

私の学校では、地域の人との関わりの機会がいっぱいあると思います。例えば、あいさつ運動や見守り隊などで毎朝、私たちが安全に、安心して登校できるように支えてくださっています。「おはよう。」「今日もいい天気だね。」「がんばりよ。」と笑顔で話しかけてくださるので、気持ちよく一日をスタートすることができています。勉強においても、「のこぎり先生」や「さいほう先生」として、のこぎりやミシンの使い方を優しく教えてくださり、私たちは、楽しく学ぶことができています。地域の人の方が分かりやすく、ていねいに説明してくださるので、最初は不安だった活動が、わくわくした気持ちで行うことができ、とても感謝しています。こんなふうに、地域の人と関わりが多い泉川地区のことが私は大好きです。

私が地域の人と関わる中で、気を付けていることが三つあります。

一つ目は、あいさつをすることです。地域の方はよくあいさつをしてくださいます。なのに私は、すぐに返せなかったり、自分からあいさつをすることができなったりします。私にとって、あいさつをすることは少し勇気が必要です。やろうと思っているけれど、なかなかできないので、意識してあいさつするようにしています。

二つ目は、地域の方が困っていたら助けることです。一年生の時に、友達と遊んだ後に走って家に帰っていると、つまずいてこけて、けがをしてしまいました。友達は帰ってしまったので、一人で足の痛みをがまんして、今にも泣きだしそうになっていたところ、地域の方が来て、ばんそうこうをはってくれたことを今でも覚えています。「だいじょうぶ。」「痛かったね。」と心配してくださり、痛みが和らぎました。だから、私も地域の方が困っているのを見かけたら声をかけたいと思います。

三つ目は、協力することです。泉川小学校は去年150周年をむかえました。そのとき地域の方がうれしそうに昔の泉川小学校のことを話しているのを見ると、地域とのつながりの深さを感じました。地域の行事やイベント、ボランティア活動など、泉川地区がよりよくなるように、私にできることを見付けて、参加していきたいと思います。

このように、地域の人との関わりにより、私は明るく元気に毎日を過ごせています。

「犯罪のない町づくり」

泉川小学校 6年 近藤 歩斗

ぼくが住んでいる新居浜市は、安全でとてもすてきな町です。このすてきな新居浜市がもっと犯罪のない町になるために、必要だと思うことがいくらかあります。

一つめは、いろいろな人にやさしくすることです。どうしてもかい決できない困ったことがあると、人はどのようなことをすると思いますか。もしかしたら、困ったことがあるために悪いことをしてでもかい決しようとする人もいるかもしれません。そんなとき

に、困っている人にやさしく声をかけることで、困っていることがかい決するかもしれません。困っていることがかい決したら犯罪をしなくてすむので、全体の犯罪の数が少なくなるとぼくは思いました。それに自分がやさしくすることで犯罪が少なくなるなら、ぼくも役に立てるし、うれしいです。

二つめは、地域や他のたくさんの人のためにボランティア活動をすることです。いろいろなボランティア活動がありますが、特にゴミひろいは犯罪のない町づくりにとって必要なボランティアだと思います。ゴミのポイすてはみんなにめいわくをかけることです。自分がゴミひろいをするので、自分にもゴミのポイすてが悪いことだとわかるし、ゴミをひろうボランティアのすがたを見て、他の人もゴミのポイすてが悪いことだと気づくと思います。そうすれば、他の悪いことや犯罪も減っていくと思います。また、自分がボランティア活動でがんばったことを、毎日の生活でも自分からしていけるようしていきたいし、友達もさそっていっしょにできたら楽しいと思います。

三つめは、友達がきけんなことをしているのをみつけたら、声をかけて止めてあげることです。その友達はきけんなことだとか悪いことだと思っていないかもしれません。だからだれかが声をかけることだけでだめなことをしていると気づくかもしれません。また、そこで声をかけてもらった人は、次に他の人がきけんなことや悪いことをしているのを見たら、声をかけて止める人になってくれるかもしれません。そうすると、一人ずつ止める人が増えて、犯罪は減っていくと思います。

犯罪をすると、たくさんの人にめいわくをかけてしまいます。そのことを他の人にも伝えていきたいです。そのために、自分もやってはいけないことかどうかなのはんだんをできる人になりたいです。自分たちの町から犯罪がなくなるように、それぞれの人が気をつけてもっとすてきな町になってほしいです。そして、自分も正しいことができるように学んでいきたいです。

「新居浜市を明るくするために」

船木小学校 6年 荒井 彩希

私は新居浜市を明るくするためには、ポイ捨てをなくしたいなと思いました。私がいつも通学路を通っているとおかしのゴミやペットボトルが落ちているのをよく見ます。その中で危ないなと思ったのはたばこです。私がいつも通り学校に行っていると、左側にまだけむりが出ているたばこを見つけました。たばこをすうのはだめというルールはありませんが、ルールを守ってすってくれる人が増えると私もうれしいなと思いました。私は新居浜市の市民一人一人がポイ捨てをなくすためにできる事を考えてみました。一つ目、自分がポイ捨てをしないように、日常生活でいつも心かけておく。「だれも見て

いないからいいや」などの思いをなくしてほしいです。友達にさそわれたとしても、ポイ捨ては犯罪です。二つ目は、ポイ捨てをしている人がいたら注意する。たとえ、話しかけたら怖そうなど、不安な気持ちがあるのもすごく分かります。私は、前にクラスの男の子を見て、友達といっしょに注意をしに行きました。あまりしゃべったことがなかった男の子だったので、第一印象がすごく悪くなってしまわないかなど、心配になることがたくさんあって怖かったけど、友達が背中をおしてくれて、すごく勇気ができてしっかりと注意することができました。すると男の子も「ごめんね。注意してくれてありがとう。」と言ってくれて、相手も私もすごく良い気持ちになりました。注意をしっかりとしてくれる人が増えたら、ポイ捨てをする人が減るんじゃないかなと思いました。また、してしまったとしても、注意したらすぐにやめてほしいなと思いました。私も前は自分で勇気を出して言えなかったから、一人のときでも注意ができるようになると私もまた一つ成長できるのかなと感じました。自分がポイ捨てをたくさん見て、少し不快に思ってしまったので、ポイ捨てがなくなったらすごくうれしいなと思いました。まずは、自分自身がポイ捨てをしない。次にポイ捨てをしている人がいたら勇気を出してしっかり注意をする。最後にこのポイ捨てをなくす取組を広げるためにいろいろな工夫をして全国でポイ捨ての量を減らす。ということが大事だなとすごく感じました。また、もっと新居浜市を明るくするために、私も活動を続けたいなと改めて思いました。自分から勇気を出し、たくさんの人がこの考えを持ってほしいなと思いました。

「明るい新居浜市のために」

船木小学校 6年 土居 花菜子

私は新居浜市がさらに明るくなるには、犯罪やもめごとなどを無くしたり、ルールを守ることが必要だと思いました。犯罪などが無くなると、みんなが安心して平和に過ごせると思ったからです。

私の学校では、毎週木曜日の朝に「あいさつ運動」というものをしています。なかま委員会が門に立ってあいさつをするというものです。この活動をすることによって、あいさつをする人が増えたと感じました。ただあいさつをするのではなく、大きな声でしたり、自分からあいさつをしたりする人も増えたと思います。

また、毎日横断歩道に立ってくださっている地域の人に、「おはようございます。いつもありがとうございます。」と、言うようにしています。そうすると、地域の方も、「ありがとう。いってらっしゃい。」と、笑顔で返してくださります。私も友達も気持ち良く一日を始められています。そんな笑顔が増えたらいいなと思いました。そのためにも、毎日みんなにあいさつをしたいです。

そして、私はルールをしっかり守りたいなと思います。例えば、学校のルールはみんなが安全に過ごすためでもあると思いました。明るい新居浜になることにもつながっていくとも思います。学校のルールを破って、ろう下や教室などを走ると転んだり、ぶつかったりして、けがをするかもしれません。自分のためにもルールを守ることは大切だなと思いました。また、ルールを守っていない人やあぶないことをしている人を見かけたら、見て見ぬふりをせず注意ができたらいいなと思いました。注意をする人が増えたら、ルールを守る人も増えると思いました。ルールを守ると、けんかやもめごとも少なくなると思います。けんかやもめごとが無くなると、みんな気持ち良く過ごせると思います。私は相手の立場になって考えることも大切だなと思います。自分のことしか考えていないと、けんかの原因にもなると思いました。自分のことも相手のことも考えられるようにならないといけないと思いました。

私は、笑顔であいさつをする、ルールを守る、そして、相手の立場になって考えるというこの三つのことを意識して過ごせたらいいなと思いました。三つのことを意識する人が増えたら新居浜市はさらに明るくなるのかなと思いました。